消費者 質問箱

▶番外編◀
相談は役場商工観光課
（☎㉜4111・内線131）
か県消費生活センター
（☎0252㊼4196）へ。

手記―その②

会社員（40歳）

私は、三年前に妻を亡くし、現在は、中一、小五の男の子と二人暮らしをしている平凡なサラリーマンです。先日、次男の学級懇談会に行きました。塾に通っていない子供は、約三分の一です。私は、子供から時折、「勉強を教えてほしい」と言われても、ろくな教育も受けていない悲しさから、難解なものが多く、父親の権威を保つのが精一杯で、家庭教師をお願いするほどの余裕もないところから、せめて適当な塾や参考書でもないものかと探していました。

そんな折、小五の息子あてに一通の手紙が来たのです。開封してみると、「驚異の実績、有名中学へ抜群の進学率、今、エリートを目指す小学校高学年のための参考書！」などの見出しで、小学生向けの参考書のカタログが在中してありました。

そこで、ちょっと相談のつもりで申し込み先の○○教育出版社に電話を入れ、子供の教育で悩んでいることを吐露したのです。

すると、郵送した参考書を使えば、必ず役立つものだと説明を受けたのです。早速、誰に相談することもなく、現金を添えて申し込んだのです。

間もなく参考書が送られてきたので、息子の机に並べながら、「これで、一安心」と思い、子供も喜んで勉強を始めました。一週間くらいして、子供から、「お父さん、算数の計算の方法が先生が教えてくれるやり方と違うし、進む順序が全く違う」旨の指摘を受けたので、学校の先生に率直に相談してみたのです。

先生から、「計算の方法など、いろいろな方法を教えると子供が混乱を招くうえ、参考書をいっぱい与えて、勉強させるなどつめこみ教育は子供の成長によくない。もうすこし、大きくなってから、学校の教科書以外の副読本的に使うならいいですが」と言われたのです。

このようなことから、私は解約を申し立てたのですが、「一度使ってしまったものだから、お金を返すわけにはいきません」と言われたのです。

よくよく検討してから申し込むべきであったと、後悔しています。

〝愛〟―ふれ愛

岩中ブラスバンド部

先月18日、岩室中学校ブラスバンド部（沖野雄司部長・部員29人）が、岩室温泉病院を訪問、生の演奏を披露しました。これは、「入院患者のみなさんと心の交流を図ろう」と今年初めて企画されたもので、患者の多くがお年寄りとあって、民謡や演歌など8曲がメドレーで演奏されました。

会場には軽快なメロディーが、あるいは力強い演奏が次々に流れ、集まった約100人の入院患者から盛んな拍手を受けていました。

言葉の履歴書㊸

書き入れ時

歳末の大売り出しは、商店にとっていちばんの「書き入れ時」といわれます。帳簿の記入に忙殺される「書き入れ時」は、もっとも売れ行きがよく、もうけも大きい時期というわけです。

文字や数字を書きこむ「書き入れ」ということばは、江戸時代には金・貸借の場合に特別な意味で使われました。抵当物件を引き渡して借りる「質（しち）入れ」に対して、証文に抵当物件の名称を記入するだけで借りるのが「書き入れ」です。

幕末に来日したヘボン博士が、ローマ字を使って作った辞典「和英語林集成」に「イエヲカキイレテカネヲカル」とあるのは、証文に家屋を抵当物件として書き入れることで、借金するという意味でした。

「書き入れ時」に当たる年末の何日かは「書き入れ日」と呼ばれますが、この期間を「数え日」ということもあります。

元日までの残りの日数が、数えられるほどの少なさになるからです。もうけを数える日という意味ではありません。

おめでた／おくやみ

60年11月20日まで

おめでた

（敬称略）

氏名	前住所	新住所
蝶名林（岡本） 富雄	新潟市石瀬	石瀬
竹内（高橋） 小百合 義男	和田12	和12
宮路（西村） 真由美	無市和田12	和12
後藤（大野） 朝子 哲弥	潟東村岩室	岩室
山本（竹之内） 広美 真美	新潟市岩室	岩室
清水（高橋） 久子 誠二	和田12	和12
菊地（五十嵐） 恭子 武弘	栄町石瀬	石瀬
佐藤（丸山） 一 淳	長岡市和田10	和10
岡島（土田） 雅子 昌晴	中之口村岩室	岩室
山田（大倉） 正代 啓二	大島村高畑	高畑
鈴木（田中） 人子 幸雄	高三条市和田11	和11
森（田村） 幸子 喜子	和島村橋本	橋本
和田（松田） 高子 春子	橋問6	橋本
徳永（平原） 吟子 俊栄	岩室南谷内町	岩室南谷内
田村（梨本） 恵一 友子	巻町和12	和12
小川（立川） 伸次 春美	新潟市吉田町和8	和8

うぶごえ

氏名	誕生月日	保護者	住所
月岡 由貴（ゆき）	10・14	進	津雲田
鈴木 大樹（だいき）	10・16	茂	石瀬
山上 将希（まさき）	10・18	春行	夏井
岡島 沙織（さおり）	10・28	秀則	高畑
渡辺 和広（かずひろ）	11・6	定良	和4
佐藤 香（かおり）	11・10	純雄	新谷

おくやみ

氏名	年齢	死亡月日	世帯主	住所
池上義経	58	10・29	友一	和4
田中高蔵	77	10・29	サワノ一・司	間3
朝妻タズ	84	10・30	耕栄	西蒲越
中田平一	72	10・31	茂雄	南谷内
鈴木茂	95	11・4	岑男	橋本
竹内レン	89	11・6	巌	和9
坂田サキ	86	11・10	正芳	栄
樋浦正松	65	11・13	勝	和7
田川正邦	60	11・18		間5

今月の納税

固定資産税（4期）

（納期限は12月25日）お忘れなく

作業停電（12月）

▶5日(木)午前9時～正午＝高橋全域

▶12日(木)午前9時～正午＝和納12区全域

暮らしの健康

新・シリーズ(9)

文責／保健婦

健康づくり

糖尿病克服のために

＊糖尿病教室から

糖尿病教室の開催

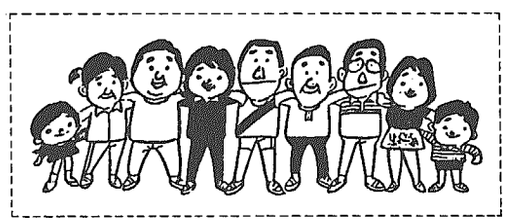
村では八月から十月にかけて、総合検診で今回、糖尿病があると言われた人、以前から糖尿病があったがより病気について理解を深めたいという人を対象に四回シリーズで「糖尿病教室」を開催しました。

第一回

会場に集まった参加者の緊張した顔――。しかし、昨年の体験者から「私は教室に参加し、仲間と勉強して、糖尿病は食事のとり方、運動を行うこと、そして毎日の積み重ねで病気を悪化させずに過ごせました」「私は今までの食生活を教室に参加したことでかえることができました。そのためか体重が減り、体調も非常によくなりました」など、体験者の発表を聞き、励まされた一回目の教室でした。

第二回・第三回

食事療法とは…、食品の仲間にはどんなものがある…、病気を悪化予防のためには……などプログラムも進んできました。そして試食会も行われました―茶わんにごはんを盛り、はかりで量る真剣な顔。そして、たったこれしか食べられないのか、とため息の混った声。その反面、ごはんが少なくても、これだけのおかずがあれば満腹になるのか、と感心する参加者のさまざまな反応。運動療法として、万歩計を付けて役場を軽く一周、「これだけだったら家庭でもできる」と少しずつ自信がでてきたという二回・三回目でした。



第四回

いろいろ勉強して、いよいよ最終会。ごはんの盛り方もスムーズにできるようになってきました。おかずも食べたいものばかり優先させず、自分の体のことを考えて作るようになり、健康を第一に考えられるような食べ方ができる、というところまでみなさん勉強を進めてきました。

「丼飯をやめて、ごはんを少しに、おかずをいろいろと食べることで体重がずいぶん減ってきた」「カロリー計算がわかったので、太りぎみの夫にも教えたい」「毎日、歩くようにしたら体調がよい」「大食だったがようやく食事療法に慣れてきた」と参加者の声。この言葉を聞き、医師・栄養士・食生活改善推進委員など私たちスタッフは、本当にホッとしました。これからが大切です。一日一日の生活を大事にしてくださいね。

糖尿病でお悩みの人は、いつでも保健婦にご相談ください。